

# さくらほっと NEWS

vol.49 令和元年秋号

名市大病院さくらほっとNEWS

vol.49 令和元年秋号

発行：名古屋市立大学病院 発行責任者：院外広報誌編集会議（年4回発行）  
〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川邊1 TEL 052-858-7114(経営課)

このイラストは古紙/VIVを再生紙を使用しています。



玄関リニューアルプロジェクトに関わった皆さん

- 新しくリニューアルされた玄関のご紹介 ...2
- がん診療・包括ケアセンターのご紹介 .....4
- 名市大病院のチカラ Vol.17 .....3
- 市民公開講座・セミナーのご案内

## がん診療・包括ケアセンターを開設 患者さん本位の全人的がん医療の実現



がん診療・包括ケアセンター  
飯田センター長

今年5月、東棟2階を中心に「がん診療・包括ケアセンター」が開設されました。多職種・多診療科のチームが患者さんの診療に携わるとともに、患者さんが社会の中で共生していただけるよう心身のケアを提供します。

### がん相談支援室

地域がん拠点病院には「がん相談支援室」が設置されています。がんに関連した看護師や相談員が無料で相談に応じます。ご希望に応じて、薬剤師や栄養士などの専門職スタッフとの面談や外来予約が可能です。



### 臨床腫瘍外来

臨床腫瘍外来は、がんの初診外来です。がんの疑いと言われた、苦痛で辛いなど不安を抱えてみえる患者さんに受診いただき、適切な専門診療科へのご案内を行っています。

### .....チーム医療で患者さんをサポート.....

がんの薬物療法、特に分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の投与で、思わぬ副作用が現れることがあります。間質性肺炎・大腸炎・内分泌異常・心筋炎など、がん専門医だけでなく、あらゆる診療科や薬剤師から成る支持療法チームが対応します。

### .....カンサーボードを開催して最適な治療をご提案.....

全がんの15%を占める肉腫や原発不明がんなど希少がんの患者さんが「がん難民」とならないように、ゲノム診断情報を含めてカンサーボードを開催して最適な治療をご提案します。



相談風景

### ・・高齢がん患者さんにもやさしい医療をご提供・・

高齢がん患者さんは、臓器機能の低下や様々な合併症を抱えています。患者さん毎に「やさしいがん医療」を提供し、在宅医療へスムーズに移行できるようサポートします。

## 市民公開講座・セミナーのご案内

### ●市民公開講座

日付	時間	会場(定員)	分野・診療科	講演者	内容	問い合わせ先
9月17日(火)	14:00~16:00 (13:30よりビデオ上映)	大ホール(病棟・中央診療棟3階)(300名)	内分泌・糖尿病内科	名古屋市立大学病院 糖尿病診療スタッフ	平成31年度第2回糖尿病教室「糖尿病と上手につきあおう」	医学研究科 消化器・代謝内科学 TEL: 052-853-8211
9月28日(土)	13:30~15:00	さくら講堂(200名)	公衆衛生学	教授：鈴木 貞夫	健康で長生き、健康寿命を伸ばすための生活上のヒント	事務局学術課 公開講座担当 TEL: 052-853-8308 ※事前申込制・有料(500円)
10月5日(土)	13:30~15:30	名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト(JPタワー5階)(80名)	消化器・一般外科内分・糖尿病内科	教授：瀧口 修司 准教授：田中 智洋	みんなで学ぼう！肥満の意味と最新の治療法	事務局学術課 公開講座担当 TEL: 052-853-8308 ※事前申込制・有料(500円)
11月23日(土)	13:30~15:30	大ホール(病棟・中央診療棟3階)(300名)	循環器内科	未定	第10回 高血圧の管理と健康長寿	医学研究科 心臓・腎高血圧内科学 TEL: 052-853-8221

9月17日(火)・11月23日(土)開催分は、事前申込不要(先着順)・費用無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

### ●9月23日(月)は通常診療を行います

令和元年9月には、連続して月曜日が祝日になります(9月16日及び23日)。定期的な外来診療を確保する観点から、当院では、9月23日(月)は平日どりの診療体制とし、外来診療等を行います。

## 地域医療機関と名古屋市立大学病院の地域医療連携



\*国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています

# 玄関がリニューアルされました

玄関のイメージアップと患者さんの利便性の向上のためのリニューアルが完了し、新しい病院の玄関が完成しました。

## 病院の顔づくり

ただ通過するだけの場所ではなく、名古屋市立大学病院のイメージを発信できる場所づくりを目指しました。木を基調とした明るくぬくもりのあるデザインとし、入り口から総合



正面玄関



総合案内



正面玄関入ってすぐ

案内まで、桜の花をモチーフにした飾りをちりばめました。

この病院玄関リニューアルプロジェクトは、病院スタッフと名古屋市立大学芸術工学部の鈴木賢一研究室の方々が2年にわたって取り組んできました。また、多くの患者さんやご家族などからご寄附いただいた

「さくら基金」を本事業に活用させていただき、実現することが出来ました。皆様のご支援に感謝いたします。ありがとうございました。

## 患者さんの利便性の向上



鈴木賢一研究室の皆さん

全体の配置計画を見直し、1日1,500人以上来院される患者さんの動線の中央に総合案内を配置し、利用しやすくしました。

また、デジタルサイネージ等を利用した掲示板に一新し、受診の流れなどをタッチパネルで確認できるようにするなど、初めての来院者にもやさしい掲示としました。

## みんなで考えたみんなの玄関

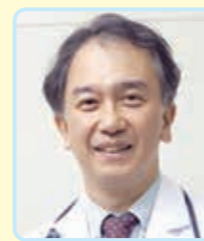


デザイン監修  
芸術工学研究科  
鈴木 賢一教授

病院玄関リニューアルの相談を受け、現地に何度も出かけ利用者の出入りの様子を観察しました。車椅子、ロッカー、掲示、サイン、傘立て、そして明るさやビル風など、解決すべき課題の多いプロジェクトでした。研究室の学生たちと議論し、ぬくもり・ほほえみ・おちつきをキーワードとする改修案を作成したのは2年前です。その後、病院関係者とワークショップを重ね、自動扉と受付を移動することにしました。実施設計と施工担当者が決まって以降も、毎週検討を継続しました。桜山にある病院として桜の花びらを散りばめ、親しみやすく品格の感じられる、市民に開かれた玄関であってほしいと願いを込めました。「みんなで考えたみんなの玄関」です。

# 名市大病院のチカラ Vol.17

## 呼吸器・アレルギー内科 免疫療法を効果的かつ安全に実施していきます



呼吸器・アレルギー内科  
新実部長

肺癌の約85%を占める非小細胞肺癌に対する薬物治療は、ここ数年での進歩は目覚ましく、とりわけ昨年のノーベル賞で一躍脚光を浴びた免疫療法の登場により治療成績は向上し、当科でも積極的に行っています。

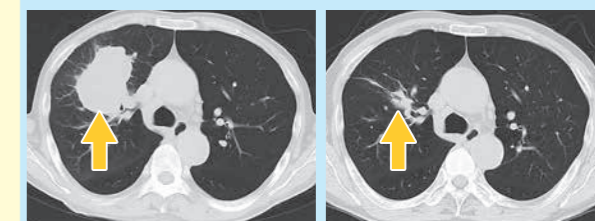
免疫は、私達の体に備わっている重要な働きで、細菌などの病原体や癌細胞を異物と認識して攻撃することで体を守っています。しかし、この働きが暴走すると私達の体まで攻撃するためブレーキが存在しますが、癌細胞はこのブレーキを悪用して免疫の攻撃から逃げて癌を発症します。免疫療法は、このブレーキを解除して、癌細胞への攻撃を強めます。

一方、正常細胞へのブレーキも解除されると副作用が現れます。皮膚・甲状腺・肺・肝臓に現れやすいですが、大腸・神経・心臓・腎臓・眼など全身どの臓器にも現れます。通常は軽症

で治療により回復しますが稀に重症化することもあり、早期に発見して適切な治療を開始することが重要です。当院には全身の臓器を診療できる多彩な診療科があり、副作用発症時の協働体制も確立されています。さらに薬剤師や看護師との連携も整っており、外来でも入院でも安心して免疫療法を受けて頂けます。

最近では、抗癌剤との併用、放射線と抗癌剤の併用療法後など投与方法も複雑となっておりますが、当院の強みを更に生かし免疫療法を効果的かつ安全に実施していきます。

免疫療法の有効例（右肺の原発巣が縮小）



治療開始前

治療5ヶ月後

## 小児科 専門とオールラウンドを兼ね備えた総合医としての小児医療



小児科  
齋藤部長

こどもたちの総合医である小児科医には、プライマリから高次医療に続く様々な局面において、幅広い対象年齢の児の健康を支援する力が要求されます。私たち名市大小児科は新生児医療が産声を上げた場として有名ですが、伝統に甘んじることなく、世界の最先端で医療を創り続けています。各診療グループの専門性の高さと対照的に、チーム間に垣根は全くないのが特徴で、スタッフ全員が総合医としての誇りを持って診療と教育に当たっています。国内随一の規模と数を誇る関連高次医療施設・地域密着型施設の医師とともに、東海地区に住むこどもたちの成長を全力で支援します。

小児の入院する病棟は、NICU（新生児集中治療室）と小児病棟に分かれています。NICUでは早産で生まれた赤ちゃんや何らかの疾患をもつ赤ちゃんの治療を行っています。小児病棟では血液腫瘍・先天性心疾患・内分泌疾患など、専門性の高い疾患を診療しています。また、当院に

は小児専門のICU（集中治療室）もあるため、三次救急も積極的に受け入れて重症のこどもたちの治療にも当たっています。

本年5月に第61回日本小児神経学会学術集会を主催しました。稀少疾患のみならずてんかんや脳性まひ、発達障害、新生児脳障害の診療で最善かつ最先端の医療を提供できるよう、スタッフが一丸となって取り組みました。当科が中心となって牽引している小児未診断疾患イニシアチブ（IRUD-P）事業や低体温療法全国登録事業“Baby Cooling Japan”について国内外の医師と協働し、学術的交流を一層深めることができました。引き続きこどもたちの診療にたゆまない努力をしていく所存です。



第61回日本小児神経学会学術集会での発表の様子